



門7保10  
號6014  
卷



第一條 此法律ハ府縣公共事務ニ関スル事項ヲ  
規定スルモノトス  
府縣徒前ノ如ク國ノ行政區畫トシ國ノ行政  
及官制ニ関スル事項ハ此法律ニ依リ變更  
セサルモノトス

府縣制

第一章 總則

第一條 府縣及其區域

第一條 此法律ハ府縣ニ施行スルモノトス

第二條 府縣ハ國ノ行政區畫トシ直法人ノ資格ヲ有シ府縣ノ公共事  
務ハ官ノ監督ヲ受ケテ申テ之ヲ處理スルモノトス

第三條 府縣ハ其區域内ニ在ル郡市及島嶼ヲ總括スルモノトス  
府縣ハ從來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セズ但將來其變更ヲ要スル中  
トアルトキハ此法律ニ準據ス可キ

第四條 府縣ノ廢置分合及府縣境界ノ變更ヲ要スルトキハ關係アル  
府縣會ノ意見ヲ聞キ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣之ヲ定ム

府縣境界ニ當ル郡市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ府縣境界モ亦自

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

ヲ變更スルモノトス

第二款 府縣住民及其權利義務

第五條 府縣内ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其府縣住民トス

第六條 府縣住民ハ左ノ權利及義務ヲ有ス

一 此法律ノ規定ニ依リ府縣ノ行政及代議ニ參與スル事

二 府縣ノ公共營造物ニ關スル規定ニ依リ之ヲ共用シ及此法律ノ

規定ニ依リ府縣ノ費用ヲ負擔スル事但特ニ民法上ノ權利義務

ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第七條 府縣住民ハ府縣ノ行政及代議ニ關スル名譽職ヲ擔任スルノ

義務ヲ有ス

左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコト

ヲ得ス

一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者

二 營業ノ爲メニ常ニ其住居地ニ居ルコトヲ得サル者

三 年齡滿六十歳以上ノ者

四 官職ノ爲メニ府縣ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者

五 四年間無給ニシテ府縣吏員ノ職ニ任シ又ハ四年間府縣會議員

ノ職ニ居リ爾後四年ヲ經過セサル者

六 其他府縣會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任

期ノ職務ヲ少クトモ三年間擔當セス又ハ職務ヲ實際ニ執行セサル

者ハ府縣會ノ議決ヲ以テ三年以上六年以下府縣ノ行政及代議ニ參

與スルノ權ヲ停止シ且兩年期間其負擔ネ可キ府縣稅ノ八分一乃至

四分一ヲ増課スルコトヲ得

前項府縣會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三款 府縣條例

第六條 府縣ノ公共事務ニキテ此法律中ニ明文ナクハ特例ヲ設ク  
又ハ特ニ條例ヲ以テ規定ス  
ルコトヲ許セル事項ハ府縣ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スル  
コトヲ得  
府縣ニ於テハ其府縣ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコト  
ヲ得  
府縣條例及規則ハ法律命令ニ抵觸スルコトヲ得ス  
府縣條例及規則ハ府縣ノ公告式ニ依リ之ヲ公告ス可シ

第二章 府縣會

第一款 組織及選舉

第七條 府縣會ハ府縣内郡市ニ於テ選舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス  
郡市ニ於テ選舉ス可キ府縣會議員定數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但各  
郡市ヲシテ少クトモ一人ノ議員ヲ選舉セシム可シ  
第八條 府縣會議員ノ選舉ハ市ニ在テハ市制ニ從ヒ市會及市參事會

任居ヲ移シタル為メ市町村ノ公民権ヲ失ヒタル者  
其住居同府縣内ニ在ルトキハ仍ホ被選舉權ヲ有ス

會同シ市長ヲ會長トシテ之ヲ行ヒ郡ニ在テハ郡制ニ從ヒ郡會及郡  
ノ名譽職參事會同シ郡長ヲ會長トシテ之ヲ行フ  
第九條 市制町村制ノ規定ニ從ヒ府縣内市町村ノ公民中選舉權ヲ  
有スル者郡制ノ規定ニ從ヒ大地主中選舉ニ依ラスシテ自ラ郡會  
議員ト爲ル者及自ラ其選舉ニ加ハルコトヲ得可キ者ハ總テ府縣會  
ニ被選舉權ヲ有ス  
第十條 東京市京都市大阪市ニ於テ選舉スル議員ハ各其市會議員中ヨリ之  
ヲ選舉ス可シ  
其府<sup>東京府ハ警視廳トモ</sup>縣ノ官吏及府縣ノ有給吏員ハ府縣會議員タルコト  
ヲ得ス  
其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ  
受ク可シ  
第十條 府縣會議員ハ名譽職トス其任期ハ四年トシ每四年其全數

ヲ改選ス

東京府京都府大坂府府會議員ノ任期ハ三年トス但東京市京都市大坂市市會ノ毎定期改選後直ニ其全數ヲ改選ス東京市京都市大坂市市會解散ノ場合ニ於テモ亦同シ

解任ノ議員ハ再選セラル、コトヲ得

第十<sup>一</sup>條 議員中關員アルトキハ可成次回ノ府縣會開會前補闕選舉ヲ行フ可シ但遅クトモ六ヶ月以内ニ選舉ス可シ

定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル郡市ニ於テ其選舉ヲ行フ可シ

補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第十<sup>二</sup>條 府縣會議員ノ選舉ハ府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ可シ

第十<sup>三</sup>條 選舉ヲ終リタル後市會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ市長、郡會ニ於テ行フ選舉ニ在テハ郡長、直ニ當選者ニ其當選ノ旨ヲ告知

ス可シ其當選ヲ辭セントスル者ハ七日以内ニ之ヲ申立ツ可シ

一人ニシテ數ヶ所ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應ス可キコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者ト視做ス可シ

第十<sup>四</sup>條 選舉人選舉ノ效力ニ關シテ訴願セントスルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得其訴願ハ府縣會之ヲ裁決ス

府縣會ハ訴願ノ有無ニ拘ラス議員選舉ノ效力ヲ審查議決スルモノトス

第十<sup>五</sup>條 當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シタルトキハ其人ノ當選ハ效力ヲ失ヒ及就職後其要件ヲ失フ者ハ議員タルノ資格ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ府縣會之ヲ議決ス

第十<sup>六</sup>條 第十<sup>四</sup>條第一項ノ裁決ヲ受ケタル者又ハ第十<sup>六</sup>條第二項

及第十七條ノ議決ニ依リ其選舉ヲ無効トセラレタル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其裁決又ハ議決ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第二款 職務權限及處務規程

第十九條 府縣會ハ其府縣ヲ代表シ此法律ニ準據シテ府縣ニ關スル

一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セ

ラル、事件ヲ議決スルモノトス

第二十條 府縣會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

一 府縣條例及規則ヲ設ケ並改正廢止スル事

二 府縣ノ歲入出豫算ヲ定メ豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ヲ認

定スル事

三 決算報告ヲ認定スル事

- 四 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外手数料及府縣稅ノ賦課徵收法ヲ定ムル事
- 五 府縣有不動産ノ賣却交換讓渡並質入書入ヲ爲ス事
- 六 歲入出豫算ヲ以テ府縣參事會ニ委任シタルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 七 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外府縣有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事
- 八 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外府縣吏員ヲ設ケ其員數給料及退職料並進任法ヲ定メ又必要アルトキハ府縣吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事但警察官吏及司獄官吏ハ府縣吏員ニ屬セザルモノトス
- 第十九條 府縣會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル選舉ヲ行フ可シ
- 第二十條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

府縣會ハ其全府縣又ハ一部分ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ差出スコトヲ得

第二十一條 府縣會ハ府縣内ノ郡若クハ市ニシテ公法上ノ義務ヲ盡シ又ハ公益ノ爲メニスル事業ノ費用ヲ負擔ス可キ資力ナキ事實アルトキハ府縣ノ費用ヲ以テ相當ノ補助ヲ與フルコトヲ得

第二十二條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可カラサルモノトス

第二十三條 府縣會ハ府縣知事ヲ以テ議長ト爲メ定期改選後ノ議長故障アル時ノ爲メ府縣會ハ初開ノ通常會ニ於テ議長ノ議員中ヨリ議長代理一名ヲ互選ス可シ其

議長代理ノ任期ハ其議員ノ任期ニ從テ其改選ハ毎定期改選後ノ初會ニ於テ之ヲ行フ

議長及代理者共ニ故障アルトキハ府縣會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長

第二十四條 府縣知事其他府縣參事會員及知事ノ代理者若クハ補助委任セル官吏ハ府縣會會議ニ列席スルコトヲ得  
前項列席者ニ於テ發言ノ順序ハ議長ハ發言請求ノ順序ニ拘ラス何時ニテモ之ヲ許ス可キモノトス

第二十五條 府縣知事及府縣參事會員ハ府縣會會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ズ

第二十七條 府縣會ハ毎年一回秋季ニ於テ通常會ヲ開ク可シ其會期ハ三十日以内トス其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ毎回七日以内トス

府縣會ハ府縣知事之ヲ招集ス其招集狀ヲ發シ並會議ノ事件ヲ告知スルハ會議ノ十四日前タル可シ但急施ヲ要スル場合ニ於テハ三日前ニ告知スルモ妨ケナシ

府縣會會期ハ府縣知事之ヲ開閉ス  
府縣參事會員ハ府縣會議員タラサル者ト雖モ本條第二項ノ例ニ依リ之ヲ府縣會會議ニ招集ス可シ

第二十八條 府縣會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ議決スルコ

ト爲ス可シ

トヲ得ス但同一ノ議事ニ付開會再回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第二十九條 府縣會議員ニ於テ議案ニ關係ナキ事件ヲ府縣會會議ニ提出セントスルトキ其府縣ノ經費ニ關係アルモノハ議員三分之一以上ノ贊成ヲ要シ其他ノ事件ハ五名以上ノ贊成ヲ要ス

第三十條 府縣會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第三十一條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ府縣會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス議長及參事會員モ亦同シ

第三十二條 府縣會ニ於テ選舉ヲ行ハトキハ郡制第二十四條第四ヨリ第七ニ至ル規定ニ依ル可シ  
前項ノ選舉ニハ府縣會ノ議決ヲ以テ指名推選ノ法ヲ用フルコトヲ得

第三十三條 府縣會ノ會議ハ本開ス但議事ニ依リ內會議ノ議決ヲ以テ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第三十四條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ並延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽席ニ於テ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又ハ喧擾ヲ起ス者アルトキハ議長ハ傍聽者ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第三十五條 府縣會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及選舉ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記錄セシム可シ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名ス可シ其議員ハ會議ノ前府縣會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置ク可シ

第三十六條 府縣會ハ其會議細則ヲ設ク可シ

第三章 府縣行政

府縣會ノ議決ハ議事録ノ謄本ヲ以テ之ヲ府縣知事ニ報告ス可シ

傍聽ヲ許ス但府縣知事ノ要メ又ハ

又ハ推薦ヲ為ス

四



第一款 府縣參事會

第三十七條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス

一 府縣知事

二 高等官二名

三 名譽職參事會員六名但府縣條例ヲ以テ其定員ヲ増加スルコトヲ得

東京府京都府大坂府ニ於テハ名譽職參事會員ヲ十二名トス

第三十八條 府縣參事會員タル高等官ハ府縣廳ニ奉職スル高等行政官中ヨリ内務大臣之ヲ命ス

其他内務大臣ハ府縣廳ニ奉職スル高等行政官ノ内ヨリ前項參事會員ノ代理者一名ヲ命ス

第三十九條 名譽職參事會員ハ府縣會之ヲ選舉ス

其他府縣會ハ名譽職參事會員ノ代理者四名ヲ選舉ス但東京府京都

府大坂府ニ於テハ八名トス

名譽職參事會員及其代理者ハ府縣會ニ被選舉權ヲ有スル府縣住民

中年齡滿三十歳以上ノ者ヨリ之ヲ選舉ス

名譽職參事會員及其代理者ハ第十九條第五項ニ掲載スル職ヲ兼

ヌルコトヲ得ス郡長、檢察官、警察官吏、神官、僧侶、其他諸宗教師並小

學校教員ハ參事會員及其代理者タルコトヲ得ス其他官吏ニシテ當

選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ

第三十八條 東京府京都府大坂府參事會員及其代理者ハ其府會ノ市部

議員及郡部議員ニ於テ各其半數ヲ選舉ス可シ

東京府京都府大坂府府會ノ市部議員ニ於テ選舉

其代理者中各其半數ハ東京市京都市大坂市市會議員又ハ市吏員

兼ルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大坂府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都

府大坂府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大坂市市會議員又ハ市吏員

兼ルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大坂府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都

府大坂府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大坂市市會議員又ハ市吏員

兼ルコトヲ得ス

此法律中東京府京都府大坂府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都

府大坂府府會ノ市部議員トアルハ東京市京都市大坂市市會議員又ハ市吏員

兼ルコトヲ得ス

市大坂市ニ於テ選舉スル議員ヲ云ヒ郡部議員トアルハ東京市京都  
市大坂市ヲ除キ其他ノ部分ニ屬スル議員ヲ云フ

第三十九條

名譽職參事會員及其代理者ノ任期ハ四年トス任期滿限  
ノ後ト雖モ後任者就職ノ日迄在職スルモノトス

名譽職參事會員及其代理者ハ每二年其半數ヲ改選ス東京府京都府  
大坂府ハ市部議員ニ於テ選舉シタル參事會員及其代理者ノ半數ト  
郡部議員ニ於テ選舉シタル參事會員及其代理者ノ半數トヲ改選ス  
若シ二分シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ノ  
解任者ハ參事會議長其會議ノ席ニ於テ抽籤シテ之ヲ定ム但解任者  
ハ再選セラレハコトヲ得

前項ノ場合ノ外名譽職參事會員及其代理者任期中關員アルトキハ  
其殘任期ヲ補充スル爲メ次回ノ府縣會ニ於テ補闕選舉ヲ行フ可  
シ

東京府京都府大坂府ハ定期改選及補闕選舉トモ前任者ノ選舉セラ  
レタル市部郡部若クハ郡部議員ニ於テ其選舉ヲ行フ可シ

第四十條

名譽職參事會員及其代理者ノ選舉ニ付テハ府縣參事會  
申シ其效力ノ有無ヲ議決ス

當選者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シタルトキハ  
其人ノ當選ハ效力ヲ失ヒ及就職後其要件ノ一ヲ失フ者ハ參事會員  
タルノ資格ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ府縣參事會之ヲ議決ス  
本條第一項第二項ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ  
トヲ得

本條ノ訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スル  
ニ非サレハ更ニ選舉ヲ爲スコトヲ得ス

第四十一條

府縣參事會ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ  
一 府縣會有財產及營造物ノ管理ニ關スル事ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事但法律勅令若クハ  
警察及監獄ハ府縣營造物ト爲スノ限ニ在ラス

↑府縣會ノ議決ニ依リ別段ノ委任若クハ吏員ニ委任シタルモ  
ノ此限ニ在ラズ

二 法律勅令及歳入出豫算表ニ據リ府縣ノ公共事務ヲ管理スル事  
但警察事務及監獄事務ハ從來ノ成規ニ依リ府縣知事之ヲ管理

三 府縣ノ名譽職參事會員及其代理者、委員其他ノ吏員ニ對シテ  
懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五拾圓以下ノ過怠金ト  
ス有給吏員ニ對シテハ府縣知事亦此懲戒處分ヲ行フ

四 官廳ノ諮問アルトキ其意見ヲ陳述スル事  
其他此法律ニ依リ委任セラレ又ハ總テ將來法律勅令ニ依テ委  
任

五 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者、高等官會員又ハ其代  
理者ノ内一名及名譽職會員又ハ其代理者ノ内三名出席スルトキハ  
議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數  
ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

任セラル、事務ヲ處理スル事

第四十條 府縣參事會ハ議長又ハ其代理者、高等官會員又ハ其代  
理者ノ内一名及名譽職會員又ハ其代理者ノ内三名出席スルトキハ  
議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數  
ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記ス可シ

第四十一條 府縣參事會員及其代理者ハ自己及其父母兄弟若クハ妻  
子ノ一身上ニ關スル事件又ハ同一事件ニシテ他ノ資格ヲ以テ其事  
件ノ議決ニ加ハリ又ハ意見ヲ陳述シ若クハ理事者代理者等トナリ  
テ之ヲ取扱ヒタルトキハ其事件ニ付府縣參事會ノ議事ニ參與シ及  
議決ニ加ハルコトヲ得ス但同一事件ト雖モ府縣會ノ事務ニ關係シ  
又ハ高等官會員及其代理者ニ於テ職務上其事務ヲ取扱ヒタルモノ  
ハ此限ニ在ラス

前項除名ノ爲メニ參事會員及其代理者減少シテ議決ヲ爲スノ定數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ臨時ニ府縣會議員中該事件ニ關係ナキ者ヲ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第三十七條ノ全數ニ滿タシ

第四十條 府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ二府縣以上ノ町村又ハ郡市ニ交渉スルハ内務大臣ニ於テ其事件ヲ管轄ス可キ參事會ヲ指定ス

第四十一條 東京府京都府大坂府參事會ノ職權ニ屬スル事件ニシテ專ラ東京市京都市大坂市ニ關スルモノハ其府會市部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員及其代理者ノミ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハリ其東京市京都市大坂市外ノ市町村若クハ郡ニ關スルモノハ郡部議員ニ於テ選舉シタル名譽職參事會員及其代理者ノミ其事件ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルモノトス

第四十二條 府縣知事ハ府縣參事會擔任ノ事務ヲ指揮監督ノ處務ヲ濫用ナキコトヲ務ム可シ

府縣知事ハ府縣參事會ヲ召集シ之カ議長ト爲ル知事故障アルトキハ高等官會員之ヲ代理ス  
高等官會員議長ト爲ルトキハ其代理者一名ヲシテ會議ニ加ハラシムルコトヲ得

府縣知事ハ府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件中常務ニ係ルモノハ本會決議處分ニ參事會ノ議事ヲ準備シ議決ヲ執行シ外部ニ對シテ參事會ヲ代表シ參事會ノ名ヲ以テ文書ヲ往復スル及總テノ文書ニ署名捺印ス但府縣ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔ス可キ證書及委任狀ニハ府縣會若クハ府縣參事會議決ノ旨ヲ記シ知事又ハ其代理者ノ外參事會員二名之ニ署名シ知事ノ官印ヲ捺ス可シ

第四十三條 急施ヲ要スル場合ニ於テ府縣參事會ヲ召集スルノ暇ナ

第四十六條 府縣知事ハ府縣參事會擔任ノ事務ヲ指揮監督シ參事會ノ職權ニ屬スル事件中常務ニ係ルモノヲ專決處分シ參事會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スルモノトス但府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニ付テハ參事會ノ議決ニ準據ス可シ  
府縣知事ハ府縣參事會ノ擔任ニ屬スルモノヲ除ク外一切ノ府縣公共事務ヲ管理スルモノトス  
府縣知事ハ府縣會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スルモノトス但府縣參事會ノ職權ニ屬スル事件ニ付テハ參事會ノ議決ニ準據ス可シ  
府縣知事ハ府縣會及府縣參事會ノ推薦ニ依リ府縣ノ有給吏員ヲ選任シ且其有給吏員ニ對シテ第四十一條才三ニ記載シタル懲戒處分ヲ行フモノトス

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ府縣知事ノ擔任ニ屬スル事務ハ府縣知事ニ於テ府縣廳官吏ヲ以テ之ヲ處理ス可シ但格段ノ事務ヲ處辦セシムル爲メ特ニ府縣吏員ヲ設置スル場合ハ此限ニ在ラス

キトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ事務ヲ專決處分シ次回ノ會議ニ於テ其處分ヲ報告ス可シ

第五十條 府縣廳官吏ノ職務權限及其職務上ノ權利義務ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除キ外總テ從來ノ成規ニ依ル

第二款 府縣委員

第四十九條

府縣ハ府縣會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置ク

コトヲ得委員ハ府縣參事會ニ於テ其會員中又ハ府縣會ニ被選舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ選舉ス

委員ハ名譽職トス

第五十一條

委員ハ府縣參事會ノ監督ヲ屬シ府縣行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ノ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス

委員長ハ委員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム但府縣知事又ハ其委任ヲ受ケ

委員ハ府縣參事會ノ監督ヲ屬スル事務ニ付テハ參事會ノ指揮監督ニ屬シ其他ノ事務ニ付テハ府縣知事ノ指揮監督ニ屬スルモノトス

タル高等官ハ隨時委員會ニ列席シテ議長トナリ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス

第五十條 常設委員ノ組織及職務權限ニ關シテハ府縣條例ヲ以テ

別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四章 府縣ノ經濟

第五十條 地方稅及備荒儲蓄金ノ經濟ニ屬スル營造物及財產並備

荒儲蓄金ハ此法律施行ノ日ヨリ府縣ノ所有トス但備荒儲蓄金徵集

儲蓄及支出方法ハ該法ノ規定ニ依ル

第五十一條 府縣有財產ノ賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負

ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其

費用ニ比シテ得失相償ハサルトキ又ハ府縣會ノ認許ヲ得ルトキハ

此限ニ在ラス

第五十二條 府縣有財產及營造物管理ノ費用、府縣ノ事務費、府縣吏

府縣會、府縣參事會及委員

員ノ給料、退隱料其他諸給與及從來法律命令若クハ慣例ニ依リ並將來法律勅令ニ依リ府縣ノ負擔ト定メ又ハ府縣會ノ議決ニ依リ府縣ノ公共事務ト定メタル事件ノ費用ハ總テ府縣ノ負擔トス

第五十五條 府縣ノ名譽職參事會員及其代理者並委員ハ旅費滞在日當其他實費辨償ヲ受クルモノトシ府縣會議員其他ノ名譽職員ハ實費辨償ニ限り之ヲ受クルコトヲ得

旅費滞在日當其他實費辨償額ハ府縣會之ヲ議決ス

前項ニ記載シタル諸給與其他吏員ノ給料退隱料ニ關シテ異議アル者ハ關係者ノ出訴ニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五十八條 府縣ノ支出ハ府縣稅ヲ以テ之ニ充ツ但府縣會ノ議決ニ依リ府縣有財產ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ先ツ其支出ニ充ツルコトヲ得

第五十九條 府縣稅トシテ賦課スルコトヲ得可キモノ左ノ如シ

一 國稅ノ附加稅

二 特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅ニ附加スルヲ常例トス

第六十條 府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ別段ノ稅法ヲ發布スル迄此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外地方稅ニ關スル規定ニ依ル

市ハ府縣會ノ議決ニ依リ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受ケ家屋稅ヲ賦課スルコトヲ得此場合ニ於テハ戶數ニ賦課スル特別稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

第六十一條 三ヶ月以上府縣内ニ滞在スル者ハ滞在ノ初ニ遡リ其府縣稅ヲ納ムル義務ヲ有スルモノトス

第六十二條 府縣内ニ住居ヲ構ヘス又ハ三ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舖ヲ定メ營業ヲ爲ス者

ハ土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムルモ  
ノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限  
ニ在ラス

第六十條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課シ及府縣ニ於テ特別ニ所得稅ヲ

賦課セントスルトキハ納稅者ノ府縣外ニ於ケル所有ノ土地家屋又  
ハ店舗ヲ定メタル營業ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノト  
ス

第六十四條 數府縣ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ府縣稅ヲ

賦課スルトキハ土地家屋又ハ店舗ヲ定メタル營業ヨリ收入スルモ  
ノ、外ハ其所得ヲ各府縣ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ

第六十五條 市町村稅免除ノ規定ハ府縣稅免除ニ對シテモ亦適用ス  
ルモノトス

第六十六條 府縣ニ於テ府縣内ノ一部分ニ對シテ利益ノ厚薄アル

事業ヲ興ストキハ府縣會ノ議決ニ依リ其利益ノ割合ニ準シ該部分  
ノ負擔ヲ加重又ハ輕減スルコトヲ得

第六十七條 府縣會ハ各市町村内ニ於テ徵收スル特別稅賦課徵收ノ  
方法ヲ關係市町村會ノ議決ニ委付スルコトヲ得

前項市町村會ノ議決ハ法律勅令又ハ府縣會ノ議決ニ抵觸スルコト  
ヲ得ス且其議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

市町村會ニ於テ府縣會ノ指定シタル期限内ニ其議決ヲ爲サ、ルト  
キハ府縣參事會ニ於テ其賦課徵收ノ方法ヲ定ム可シ

第六十八條 府縣會ハ府縣ノ事業ノ爲メ町村ニ於テ徵收スル戶數ニ  
賦課スル特別稅ノ全部又ハ一部ヲ夫役又ハ現品ヲ以テ代納スルコ

トヲ許スコトヲ得

第六十九條 府縣稅ハ法律勅令及府縣會議決ニ依リ又第六十七條ノ  
場合ニ於テハ市町村會又ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ左ノ區別ニ從

テ各納稅義務者ニ之ヲ賦課ス

一 國稅ノ附加稅ハ市町村長之ヲ賦課ス

二 第六十七條ニ從ヒ特別稅ノ賦課徵收方法ヲ關係市町村會ノ議

決ニ委付シタル場合ニ於テハ市參事會又ハ町村長之ヲ賦課ス

但市町村會ニ於テ其議決ヲ爲スノ際併セテ各納稅義務者ノ賦

課ヲ定メタルトキハ其議決ニ依ル

其他ノ場合ニ於テハ府縣參事會ニ於テ賦課ス但府縣會ノ議決

ニ依リ郡市參事會又ハ町村長ニ委任シ賦課セシムルコトヲ得

第六十八條 府縣稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以

內ニ之ヲ其賦課廳ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度內

減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第六十九條 前條ニ記載シタル訴願ハ町村長ノ賦課ニ對スルモノハ

郡參事會之ヲ裁決シ其他ノ場合ニ於テハ府縣參事會之ヲ裁決ス町

村長ノ賦課ニ對スル場合ニ於テ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府  
縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ總テ行政裁判  
所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

府縣參事會ハ其職權ヲ以テ市町村長及郡市參事會ニ於テ爲シタル

賦課ヲ檢査及修正シ且若シ其賦課ヲ遷延スルトキハ自ラ之ヲ爲ス

コトヲ得

第七十條 府縣稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ノ

生シタル月ノ終迄月割ヲ以テ之ヲ徵收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ

之ヲ其賦課廳ニ届出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅

ヲ徵收スルコトヲ得



第七十五條 府縣稅ハ各市町村ニ於テ市町村稅徵收ノ手續ニ依リ之ヲ徵收ス可シ但市町村ハ其徵收費トシテ府縣稅徵收額ノ幾部ニ相當スル金額ヲ受クルモノトス其歩合及各市町村ノ配當方法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

滯納處分ハ從來ノ成規ニ依リ郡ニ於テハ郡長、市ニ於テハ市參事會之ヲ執行スルモノトス

會計年度ヲ越ユル納稅延期ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第七十四條 東京府京都府大坂府ニ於テハ府ノ支出ヲ市部及郡部ニ分賦ス

其分賦ノ割合ハ市部及郡部トモ前年度ノ直接國稅徵收額ニ準據シ府會ニ於テ之ヲ定ム但府會ハ第六十六條ニ依リ各部ノ負擔ヲ加重又ハ輕減スルコトヲ得

前項市部ノ分賦額ハ市制ノ規定ニ依リ市稅ト同ク市ニ於テ之ヲ徵收シ其總額ヲ府金庫ニ納ム可シ

郡部ノ分賦額ハ此法律ノ規定ニ依リ之ヲ徵收ス但市部議員ハ其徵收ニ關スル議決ニ加ハラサルモノトス此場合ニ於テ是レ該長代理者共ニ市。

第七十五條 府縣ニ於テ公債ヲ起スハ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ府縣ノ永久ノ利益ト爲ル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ府縣住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

府縣會ニ於テ募債ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ募債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ募債ノ時ヨリ五十年以内ニ還了ス可シ歲入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノハ本條ノ例ニ依ラス且府縣

○部議員ニ屬スルトキハ郡部議員ニ於テ臨時該長代理ヲ互選ス可シ

會ノ議決ヲ要セサルモノトス

第七十六條<sup>四</sup> 府縣參事會ハ毎年其翌年度ニ係ル收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但府縣ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算表調製ノ際府縣知事ト府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ知事ハ意見書ヲ豫算表ニ添ヘ府縣會ニ提出スルコトヲ得臨時豫算ニ付テモ亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定メ並費目流用ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第七十七條<sup>五</sup> 豫算表ハ毎年通常府縣會ノ議決ヲ取り之ヲ内務大臣ニ報告シ並府縣ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示ス可シ  
府縣ノ公共事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スルモノハ府縣會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ經費豫算ヲ定メ之ヲ施行スルコトヲ得

豫算表ヲ府縣會ニ提出スルトキハ府縣<sup>知事</sup>參事會ハ併セテ其府縣ノ事務報告書及財産明細表ヲ提出ス可シ

第七十八條 警察費監獄費其他府縣ニ於テ法律命令又ハ從來ノ慣例ニ依リ負擔スル支出ニシテ其額ニ關シ規定ナキモノ、多寡ニ付府縣會ノ議決ニ對シ府縣知事ニ於テ異見アルトキハ内務大臣ニ具申スルコトヲ得此場合ニ於テハ内務大臣其額ヲ定ム可シ

第七十九條<sup>七</sup> 歳入出豫算外ノ支出及豫算超過ノ支出ハ府縣會ノ認定ヲ得ルコトヲ要ス

歳入出豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置クコトヲ得豫備費ハ府縣參事會<sup>豫算</sup>府縣會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルモノトス但府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第八十條<sup>七十八</sup> 府縣ニ有給ノ收入役一名ヲ置ク收入役ハ府縣參事會ノ推

薦ニ依リ府縣會之ヲ選任ス

收入役ノ選任ハ内務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス若シ其認可ヲ得サルトキハ再選<sup>推高</sup>舉ヲ爲ス可シ再選<sup>推高</sup>舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ迫テ選<sup>推高</sup>舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間内務大臣ハ臨時ニ代理者ヲ選任シ又ハ府縣ノ費用ヲ以テ官吏ニ收入役ノ職務ヲ管掌セシム可シ一府縣收入役ハ府縣ノ收入ヲ受領シ其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル

府縣條例ノ規定ヲ以テ別段ノ府縣收入役ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テ收入役ノ擔任事務ハ府縣廳ノ會計官吏ニ於テ之ヲ管理ス可シ但其出納及帳簿ハ之ヲ官金<sup>ト</sup>分別ス可シ

第七十九條 歲入出豫算表ニ依テ定マリタル收入支出ハ府縣知事ニ於テ府縣金庫<sup>ト</sup>收支命令ヲ發シ豫備費ノ支出其他總テ臨時ノ收支命令ハ府縣參事會之ヲ發ス可シ

第八十條 收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳官吏ハ前條ニ準據

シタル命令又ハ監督上ノ命令(第八十九條)アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳官吏ハ命令ヲ受クルモ歲入出豫算表中ニ其支出ノ豫定ナキモノ又ハ其命令ニシテ費目流用ノ規定及第七十九條第二項ノ規定ニ依ラサルモノハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス但監督上ノ命令ニ係ルモノハ此限ニ在ラス一前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳官吏ノ責任ニ歸ス

第八十一條 府縣ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クトモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ検査ハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル高等官之ヲ爲シ臨時検査ニハ府縣參事會ノ互選シタル會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第八十二條 決算ハ收入役又ハ其事務ヲ管理スル府縣廳ノ官吏ニ於

テ會計年度ノ終ヨリ四ヶ月以内ニ之ヲ府縣參事會ニ提出シ知事 府縣知事ハ府縣參事會三付且自己及參事會不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>ヲ審查シ意見ヲ附シテ次回ノ通常府縣會ノ認定ニ付ス可シ

決算報告ニ關スル府縣會ノ議決ハ府縣知事ヨリ之ヲ内務大臣ニ報告ス可シ

府縣會ニ於テ決算報告ヲ議スルトキハ府縣知事及府縣參事會員キ對<sub>シ</sub>第三十條ノ規定ヲ適用スルモ、トス但會議ニ列席シテ必要ノ辨明ヲ爲ス可<sub>レ</sub>ト<sub>レ</sub>得

第五章 府縣行政ノ監督

第八十三條 府縣ノ行政ハ内務大臣之ヲ監督ス

第八十四條 府縣ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

シタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得可キ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アルモノ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第八十五條 内務大臣ハ府縣行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務

錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ内務大臣ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第八十六條 府縣會又ハ府縣參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ

背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ議決  
 ノ執行ヲ停止ス可シ其公益ヲ害スルニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタ  
 ルトキハ府縣知事ハ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ車  
 内務大臣ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ  
 依テ其執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ處分ニ對シ府縣會  
 又ハ府縣參事會不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 第八十九條 府縣ニ於テ法律命令若クハ從來ノ慣例(第五十六條)ニ  
 依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ定ムル所ノ支出ヲ歲入出豫  
 算表ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示  
 シテ其支出額ヲ豫算表ニ加ヘ又ハ臨時ノ支出額ヲ定ム可シ  
 府縣會ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スル  
 コトヲ得

第七十條 府縣會又ハ府縣參事會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セス

又ハ招集前正當ノ手續ヲ以テ告知<sup>セラ</sup>レタル事件ヲ第二十七條第一  
 項ニ定メタル期限内ニ議決シ了ラサルトキハ内務大臣代テ之ヲ裁  
 決スルコトヲ得

第九十條 府縣會ハ勅命<sup>ニ非サレハ</sup>以テ之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合

ニ於テハ三ヶ月以内ニ議員ヲ改選ス可シ  
 前項改選ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員及其代理者モ亦改選ス<sup>可シ</sup>  
 但改選參事會員ノ就職<sup>ノ日</sup>迄在職スルモノトス  
 府縣委員ハ府縣會ノ解散ニ依リ改選スルノ限ニ在ラス但改選府縣  
 會ノ議決ヲ以テ之ヲ改選スルコトヲ得  
 府縣會改選結了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣參  
 事會府縣會ニ代テ之ヲ議決ス可シ  
 第九十一條 府縣條例ニ關スル府縣會ノ議決ハ勅裁ヲ受クルコトヲ

要ス

第九十一條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣

ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ府縣ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第七十五條第二

項ノ例ニ違フモノ

二 各種ノ保證ヲ與フル事

三 府縣特別稅ヲ新設シ稅率ヲ増加シ又ハ其賦課法ヲ變更スル事

四 地租四分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦

課スル事

五 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

六 府縣内直接國稅徵收額百分ノ三十五ヲ超過シテ府縣住民ニ府

縣稅ノ負擔ヲ受ケシムル事

七 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五ヶ年以上ニ亘リ

新ニ府縣住民ニ負擔ヲ課スル事

八 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金

額ヲ定ムル事

第九十條 左ノ事件ニ關スル府縣會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受

クルコトヲ要ス

一 府縣有不動産ノ賣却讓渡並質入書入ヲ爲ス事

二 第七十五條第二項ニ掲クル議決ヲ其年期内ニ變更スル事

三 第六十六條ニ準據シテ府縣内一部分ノ負擔ヲ加重又ハ輕減ス

ル事

四 第六十九條第二ノ規定ニ依リ郡市參事會又ハ町村長ニ府縣稅

ノ賦課ヲ委任スル事

五 第二十五條ニ準據シテ補助ヲ與フル事

第九十五條 追テ府縣吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官

吏懲戒例ヲ適用ス可シ

反第百六条第四項ニ從ヒ府縣知事

一 懲戒權ハ第四十五條第三ニ從ヒ府縣知事及府縣參事會之ヲ有ス

二 府縣知事及府縣參事會ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 府縣ノ名譽職參事會員及其代理者委員其他ノ吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉耻ヲ失フ者、浪費其分ヲ守ラザル者家産ヲ破<sup>破</sup>ル者又ハ職務ヲ耐<sup>奉</sup>ルサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得但其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ解職セラレタル場合ヲ除クノ外府縣ニ對シテ一切ノ給與ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣參事會ハ懲戒裁判ノ確定前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ得

第九十六條 府縣吏員其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ府縣ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シタル日ヨリ十四日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

### 第六章 附則

第九十七條 行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ同裁判所ニ屬スル職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第九十八條 市制町村制施行ノ爲メニ定メタル直接税間接税ノ類別ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用スルモノトス  
市制町村制郡制及本制施行ノ爲メ將來ノ租税ニ付直接税ト爲ス可

第九十七條 此法律施行後ハ市制第百二十二條第  
三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可ハ東京市京都市大  
坂市ニ在リテハ地租七分ノ三、二五(二十八分ノ三)及直  
接國稅滿額ヲ超過スル時之ヲ要スルモノトス

第九十八條 此法律ハ郡制市制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノ  
トス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ具申ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第九十九條 府縣内ニ在ル島嶼ノ其本地ニ對スル關係ニ付テハ勅令ヲ以  
テ特例ヲ設クルコトヲ得

郡制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出ス可キ府縣會議員ノ選舉ニ關シテ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第一百條 大市アル縣ニ於テハ其縣會並市會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以

テ第十一條、第十二條、第十四條、第十五條、第十七條及第七十四

條東京府京都府大坂府ニ係ル規定ヲ適用スルコトアル可シ

第一百一條 明治十三年四月第十五號布告府縣會規則明治十三年四月

第十六號布告地方稅規則第三條費目中區町村土木補助費、郡區廳

舍建築修繕費、郡區吏員給料旅費及廳中諸費、戶長以下給料旅費、浦

役場費、明治十四年二月第六號布告、明治十四年二月第八號布告區  
郡部會規則其他此法律ニ抵觸スル成規ハ第九十九條ニ記載シタル  
時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第一百二條 內務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令  
及訓令ヲ發布ス可シ





